研修Ⅱ　若い教師のための基礎・基本講座Ⅴ　～国語科授業のフィフスステップ～

「学び合うことで，個の考えを広げたり深めたりする国語の授業」
～想像する力～

1　新学習指導要領における「想像する力」の位置づけについて

目標　言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 日常生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。…知識及び理解

(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。…思考力，判断力，表現力等

(3) 言葉がもつよさを認識するとともに，言語感覚を養い，国語の大切さを自覚し，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。…学びに向かう力，人間性等

内容 A　話すこと・聞くこと
B　書くこと
C　読むこと ⟶ 構造と内容の把握，精査・解釈，考えの形成，共有

※「精査・解釈」とは，文章の内容や形式に着目して読み，目的に応じて必要な情報を見付けることや，書かれていること，あるいは書かれていないことについて，具体的に想像することなどである。

文学的な文章における精査・解釈
低学年…登場人物の行動
中学年…登場人物の気持ちの変化や性格，情景
高学年…人物像や物語などの全体像
⬆
★これらを具体的に想像する。

2　演習　（第４学年「ごんぎつね」の精査・解釈）

言語活動例　物語の続き話を書く。

学習目標　物語の続き話を書くために，登場人物の気持ちを考えながら読む。

※　言語活動は，その学習を通して付けたい力，それを付けるためにどんな活動をするかを考えて計画する。言語活動は単元を通して意識されるものなので，目標にも「～をするために読んでいこう。」といった形で表される。

想像を広げる３つのポイント
①文章中の言葉から（行動・会話に着目）
②様々な感覚を使って（目・耳・鼻・口・手・心）
③自分の経験・知識とつないで（自分と比較しながら）

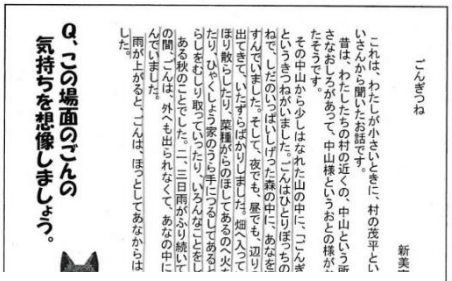
実際にやってみよう。

(1)文章中の言葉から（行動・会話に着目）

・ごんの「行動・会話」を見付ける。

(2)様々な感覚を使って

発問「ごんの様子や気持ちを想像しましょう。」



ごんぎつね

新美

これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。

昔は、わたしたちの村の近くの、中山という所に、大きなおしろがあって、中山様というおとのさまが、いたそうです。

その中山から少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」という、きつねがいました。ごんは、ひとりぼっちで、しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほってすんでいました。そして、夜でも、昼でも、辺りの村へ出てきては、いたずらばかりしました。畑へ入って、なすやかぶらを、ほりちらしたり、農家からのぼしてあるとうがらしをむしり取っていったり、いろんなことをしました。

ある秋のことでした、二、三日雨がふり続いて、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にじっとしていました。

雨が上がると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました。

Q、この場面のごんの気持ちを想像しましょう。

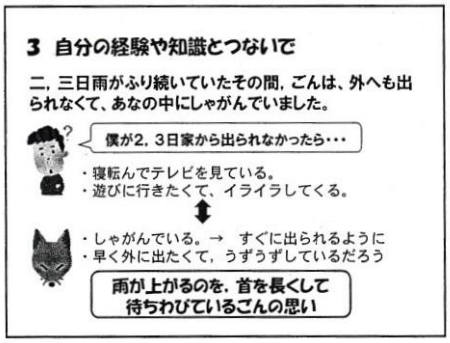
低学年の児童には
理解しにくいので…

「ごんの様子や気持ちを頭のテレビに写してみましょう。」

目…見える物，形，大きさ，表情
耳…音，声
鼻…におい
口…味
手…手触り，温度
心…人物の気持ち

(3)自分の経験・知識とつないで（自分と比較しながら）

・自分だったら…と想像し，それをごんの行動と比較して，ごんの気持ちを考える。



3　個の学びを友達と共有するために

①　自分の考えを伝えるときには，前後の文章とのつながりを大切にして理由を述べることが大切。理由の違いによって交流の楽しさや読みの深まりが生まれる。

※ぼくは，「どこから」「どんなことを」考えました。「その理由は…」

②　音読につなげる場合は，想像したことを，文字の色や形，大きさ等で表す。そして，自分がそのように表現した理由について話し合う中で，読みを深めていく。

4　様子や気持ちを表す語彙を増やすために

①　観点をもって文章を読み，言葉を集める。

・「気持ちを表す言葉」「場の様子を表す言葉」等の観点に着目して文章を読み，言葉を集める。

②　観点を決めて，言葉ゲームをする。

・一つの言葉を，さまざまな表現に置き換えていく。

（例）水泳大会に勝って，しかった時の気持ちを「嬉しい」以外の言葉で言いましょう。

「おいしいイチゴ」とは，どんなイチゴですか。

国語は,「心を通わせる力」を育てる教科である。